

氏名	十 川 重 次 郎		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1390 号		
学位授与の日付	昭和58年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	成人T細胞性白血病(Adult T cell leukemia)に関する研究 第1編：白血病細胞の抗原性 第2編：白血病細胞のTdTとMonoclonal抗体により検出されるT細胞分化抗原の検討		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 長島秀夫	教授 粟井通泰

学位論文内容の要旨

近年、本邦に多いT細胞性白血病の新しい一病型として、成人T細胞性白血病，Adult T-cell leukemia (ATL) が注目されているが、この ATL 細胞の由来、分化については未だ明らかでない。第1編においては、家兎抗 MOLT-4 及び抗胸腺細胞血清を用い、5症例 ATL 患者より得た白血病細胞の抗原性を検討した。この結果 E rosette 陽性、Surface immunoglobulin 陰性のこれら ATL 細胞は、T細胞性急性リンパ性白血病と異なり、胸腺特異抗原を欠き、成熟T細胞抗原を保有することが判明した。第2編においては、ATL細胞の起源ならびに分化程度をより詳しく知る目的で、BRL製 TdT Immunofluorescent Assay Kit 及び Becton Dickinson 社製 Monoclonal 抗体 Leu シリーズを用い14例の ATL 細胞の TdT 及びT細胞分化抗原について検討した。この結果 TdT は7例中6例で陰性、T細胞分化抗原の検索では、ATL細胞は Leu-1, Leu-3 a 陽性であった。以上の結果、ATLは成熟T細胞レベルにまで分化した Helper /inducer T細胞由来白血病であることが示された。

論文審査の結果の要旨

本研究は最近ウイルスとの関連が注目されている成人T細胞性白血病について、その白血病細胞の抗原性を検討しこの白血病は成熟T細胞レベルにまで分化した、Helper /inducer T細胞由来白血病であることを明らかにしたもので価値ある業績であると認め

る。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。